

【新】野生鳥獣個体数管理事業費補助金（ニホンザル分）

【令和6年度予算要求額 6,060千円（清流の国ぎふ森林・環境基金事業）】

- 県内におけるサルの農産物被害額は3,000万円前後で推移しており、農業現場においては局所的に甚大な被害を受けている。
- 県内には4,010～5,460頭（160群）のサルが生息し、このうち農作物等への加害レベルが高い1,420頭（26群）のサルを確認している。
- 本県では、令和5年3月に「第二種特定鳥獣管理計画（ニホンザル）」を策定し、加害レベル4以上のサルの生息数を令和9年度末までに半減させることで、県全体の加害レベルを低下させることとしている。

【事業内容】

第二種特定鳥獣管理計画に基づき、加害レベルが高いサルの生息数を半減させるため、市町村が行うサルの個体数調整捕獲に必要な経費を支援する。

【対象地域】

加害レベルの高いニホンザルが生息する地域

○第二種特定鳥獣管理計画において、加害レベル4以上のサル群が生息するとされた11市町村（26群）を優先

山県市(5)、垂井町(1)、関ヶ原町(2)、揖斐川町(3)、関市(3)、美濃市(2)、郡上市(3)、八百津町(1)、下呂市(3)、高山市(2)、飛騨市(1)

※()は加害レベル4以上の群れの数
※加害レベル4：サル群れ全体が通年農地に出没し、常時被害がある。まれに生活環境被害がある。

【事業主体】市町村

【補助対象】

○捕獲報償費 【4,860千円】
サル1頭あたり15,000円
[15千円×年間324頭=4,860千円]

○捕獲促進費 【1,200千円】
サルの個体数調整捕獲に必要な経費を助成
※ただし、1市町村あたり200千円を上限とする。
[200千円×6市町村=1,200千円]

- ・捕獲活動に係るわな等の表示プレート、腕章、ベスト
- ・サルの位置情報を確認する目的で使用するGPS機能や赤外線撮影が可能なデジタルカメラ等
- ・ICTを活用した捕獲システムの稼働に必要な通信費 ほか

【補助率】10/10

＜サル個体数調整捕獲の目標＞

加害レベル4以上（26群）の個体数管理

	年平均捕獲数	年度末生息数
R4		1,420
R5	50	1,512
R6	324	1,339
R7	324	1,149
R8	324	940
R9	324	710

※年平均捕獲数

R4生息数をR9末までに半減させるための捕獲数
R5は先行して山県市で実施（環境生活部）

※年度末生息数（R4→R9）

=前年度生息数×1.1-年平均捕獲数
[自然増加率（1.1）を考慮]

ICT活用によるサル捕獲



檻の状況を映像で確認しながら、遠隔操作で捕獲